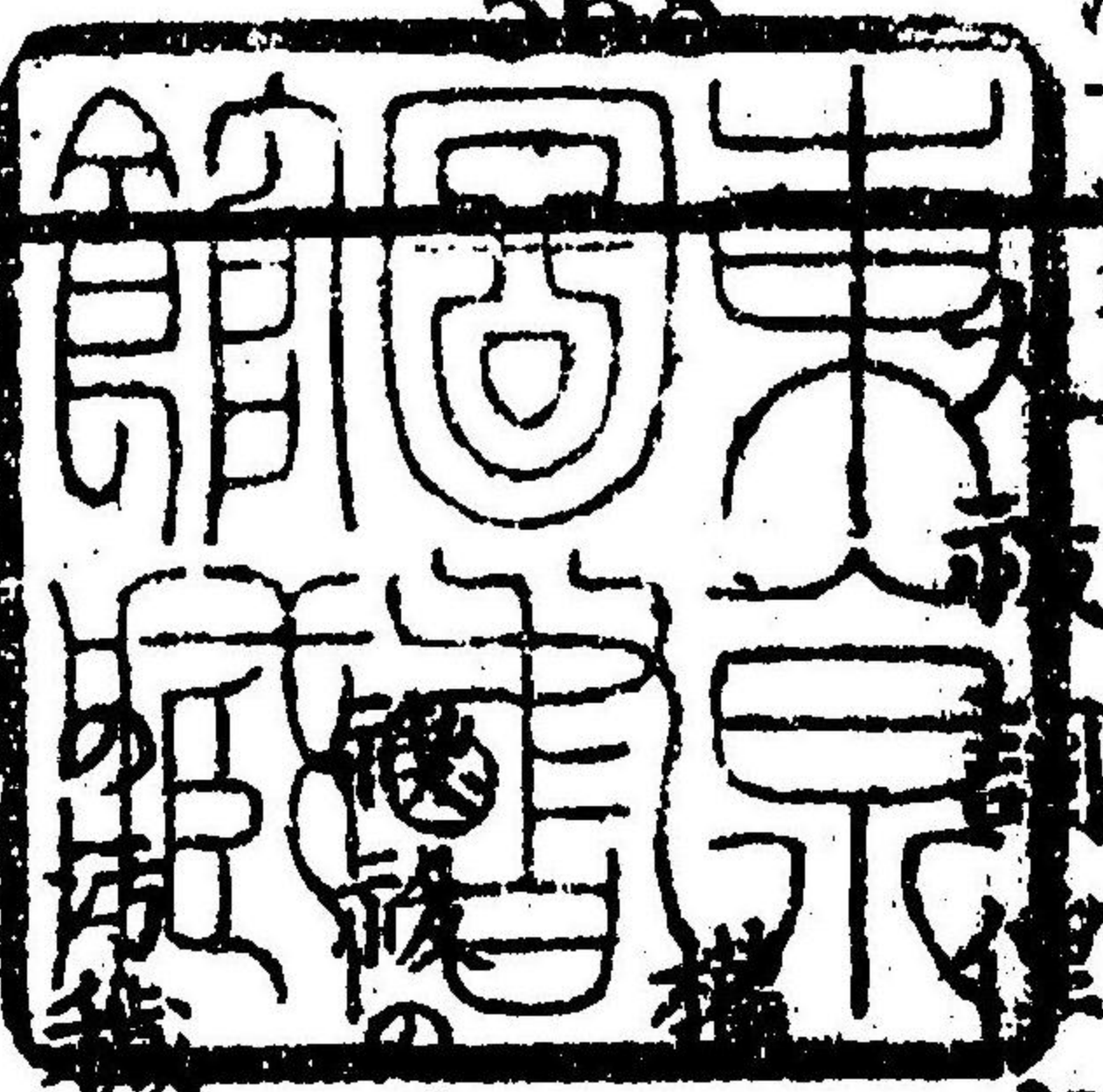


明治十五年二月二十五日

言副詮

少教正 越後 桂 上枝著



特36
568

神事ハ神代ハむろし伊邪那伎命黄泉の國
に觸給ひて其穢を清免賜まむとて日向の

小戸の立花比阿波伎原小禊し給ひし日神

月の神成出はし又須佐之男命御心荒ひ給ひし時

諸比神等の議を給ひて贖物を出さし免て祓事し

給ひしに御心清く成給ひしを以ておのぬまはを

以て禊祓の起原と云れ此神事小倣ひ玉ひ
歴世の天皇等天の下の人民等の過ち犯せ罪穢
を年々六月十二月の晦日小大祓の神事行て祓
玉ふ其時上古とて比例ふと天兒屋根命の裔孫
の大中臣の祓の詞を宣玉ふ是を俗小中臣の祓を
稱し來れ大祓と朝廷行て行をせらる事小て
此詞ら其祓事の時小宣る所の詞をきら大祓の時
に宣詠詞を云事小て大祓の詞を云ぬれ

天津神等此坐を所を高天乃原を云其
高天此原に神々等の充滿しおはしは
在哉神留や云ひ其坐を神等の中に毛
勝れく尊た神を皇親を云て皇孫邇々
伎命比御近親や有る高皇産靈神神皇
産靈神を神漏伎神漏美を申し奉る則
造化元首乃神り坐を其二柱比神乃
仰らさし御言以て教多た八百萬比神

等。を。神。に。御。使。を。以。り。御。召。集。る。集。へ
乃。少。賜。ひ。て。神。議。り。御。談。判。御。評。議。有。り
其。事。を。議。て。定。免。給。ひ。り。乃。て。我。皇。孫。邇
々。伎。命。を。豊。葦。原。に。瑞。穂。に。國。則。亦。此。大
日本。帝。國。を。安。穩。に。保。護。す。一。統。を。平。布
く。治。免。保。ち。志。祈。し。免。乃。少。玉。を。仰。ら
ま。り。其。事。を。依。り。奉。り。玉。ひ。た
如。此。依。り。奉。り。玉。ひ。た。故。り。其。瑞。穂。に。國。

は。中。に。惡。邪。荒。振。神。等。我。御。使。に。神。に。り
問。し。先。玉。ひ。た。乃。て。禊。に。問。し。先。論。し。賜
ひ。り。も。猶。從。ひ。奉。り。惡。邪。神。等。神。掃
に。掃。給。ひ。て。之。云。り。御。征。討。有。り。少。を。さ
ん。さ。て。又。昔。に。語。問。し。乃。て。萬。物。乃。皆。妖
神。乃。憑。り。て。物。言。せ。多。其。物。言。多。磐。根
樹。立。す。多。草。乃。垣。葉。亦。多。乃。物。言。不。語
を。止。さ。せ。り。乃。て。高。天。原。亦。邇。々。伎。命

此御坐多天磐座放色下王た
玉ひ天つ空此八重九重を重
加免しくう於ふた御勢不惡草
王蔓王た子みちを別發く如く
城別了天よ王降し玉ひて此
奉王玉ひた
如此皇孫命小仰言依さし奉
日本四方の國此中のよた所
や平丸

る廣祀原北山遠くしく空の高
しむ所を見立て玉ひ是を大倭
見の國を號多玉ふ則今此大和
海の其所小御坐く此國を安
中治免玉ふ屋きも此ぞを定免
下津磐石根海ども届く程に深
此柱よ堀あみ太々敷立そ初ひ
天原にても御殿の屋根此千木
高き

を。知。玉。不。程。に。造。立。て。皇。御。孫。命。則。
當。時。此。天。皇。此。御。坐。を。瑞。々。く。美。し。の。
御。殿。を。仕。奉。上。て。天。此。御。蔭。日。の。御。蔭。
や。雨。風。ふ。も。當。玉。を。忽。や。う。隱。し。奉。上。
坐。し。先。て。此。の。國。字。安。穩。ん。る。國。を。奉。上。
平。多。く。志。先。し。先。防。む。せ。あ。と。
如。此。志。先。し。先。す。と。云。國。此。中。に。成。り。出。
た。む。人。民。を。則。天。津。神。生。出。し。玉。娘。

も。此。に。日。々。彌。益。々。小。蕃。殖。を。傳。其。人。
民。等。の。若。過。ち。て。犯。し。ぬ。を。む。を。思。ぬ。
雜。々。此。罪。穢。枉。事。状。を。被。玉。不。せ。て。其。罪。
内。に。も。先。に。天。津。罪。を。稱。ぬ。是。は。田。
方。の。畔。脊。を。破。り。放。ち。て。水。字。落。し。又。ら。
用。惡。水。に。溝。を。埋。り。灌。溉。を。妨。害。種。を。開。
け。放。ち。て。用。水。を。逆。使。し。或。は。苗。代。の。種。
子。を。時。入。ぬ。上。へ。又。種。を。多。く。時。入。ぬ。

を頻時しきと云ふい生なま出だたるる苗こ此こ生なま育そぬや
るるにに一ひと田た方かた此こ中ちゆうへへ串くしをを刺さるる草くさ取とるる人ひと
此こ足あし子こ痛いた先ま汚けすす汚けれるぞの惡あく行ぎやう又また獸けもの此こ
皮かわをを生なまぬぬるる利きぎぎ其その上うへ尻しりをを頭かぶのの方かた
へへ逆さかささにに刺さぎぎ又また屎しをを履はりりちちららししくく人ひと家や
此こ妨さまた害がいをを成なすすをを履はるる衣え食く任にんのの妨さまた者ものす
子こ許ゆる々々太た久く種くさ々々のの惡あく行ぎやうもも也や須もと佐たけ之の
男をとこ命いのちのの天あま照てる大おほ御み神かみのの御み許ゆるりりてて荒あびびと

成なしし玉たまひひああ子こ罪つみ狀がた故ゆゑ小こ是こゝ等らのの罪つみ状がたをを
天あま津つ罪つみをを宣のたまふふ云いひひ別わかちちてて其その他ほか此こ
罪つみをを國くに津つ罪つみとと云いふふ其その國くに津つ罪つみをを云いふふ生なまぬぬ
子こ人ひと乃すなはちち膚かわをを断たちち傷やむむ死し人ひと此こ膚かわをを断たちち
又また白しろ人ひと胡こ久く美みれれをを云いふふ天あま刑けいのの惡あく病びやうをを患う
むむああをを川かわにに没ぼつつ入いりりてて火ひ小こ焼や傷やむむもも穢けがれれ
とと起おこすす所ところ已おのの母ははたた子こ者ものをを狂くるままにに犯とららすす
罪つみ已おのの子こたた子こ者ものをを狂くるれれ犯とららせせ所ところ罪つみ又また已お
○六

可。毒。死。後。毒。を。娶。て。そ。の。者。が。前。
不。外。に。嫁。ぎ。て。儲。置。多。る。娘。を。奸。淫。を。為。
を。母。や。子。と。犯。せ。る。罪。を。云。ふ。已。む。毒。の。實。
の。母。や。奸。淫。を。為。す。子。や。母。と。犯。せ。る。罪。
と。云。ふ。家。に。飼。置。た。る。六。畜。小。奸。淫。を。為。す。
畜。犯。せ。る。罪。と。云。ふ。大。小。の。蛇。小。咬。れ。蜈。蚣。
不。蟄。き。多。ふ。ゆ。れ。ど。を。這。ふ。蟲。は。災。と。云。ふ。天。
狗。や。狐。き。狐。や。憑。き。或。は。誑。う。は。る。と。類。

於。高。津。神。の。災。と。云。ふ。飛。鳥。に。小。兒。を。擢。き。
毒。鳥。は。糞。を。人。家。に。落。さ。ゆ。く。ゆ。ぞ。高。
津。鳥。の。災。と。云。ふ。六。畜。を。殺。し。斃。し。其。飼。
主。り。仇。を。る。ま。畜。仆。し。と。云。ふ。人。を。咒。咀。返。
ぢ。あ。ら。ぶ。ふ。を。蠱。物。爲。罪。と。云。ふ。此。の。如。く。
許。々。太。文。と。云。ふ。て。多。く。の。罪。出。む。を。れ。て。
如。此。罪。に。出。た。あ。ら。ば。天。津。宮。の。神。事。了。
倣。ひ。て。以。て。天。兒。屋。根。命。は。齋。戒。を。守。大。

中臣の天津神事に因りて金木を云ぬ
細き棒の如き堅き若木を本を打切末
をも打断て中間にほごよき所を以て
千坐乃置坐と云机乃如き臺に製し作
て設け置き其上より被の物品を満足ら
し又天津神事乃如く清地麻を是
も金木と同しく本を苜断ち末を苜切
て中程乃とた所を八針にも九針にも

細に取割き其を以て被を爲し天津神
よて傳れは祝詞此の毛ぬ布や此祝
詞の言を宣ふ少くは玉ぬ
如此宣て玉ふれは天津神等と天此
磐戸を押披きて天津空乃八重九重之
重き衣雲霧を以て先しく宇を高き御
勢に悪草乃繁て蔓りぬみちを別
ぬふ如くにみちを別り聞食さか玉を

む。國津神等。高。山。乃。峯。の。精。短。く。き。
山。乃。峯。此。末。了。上。王。坐。玉。ひ。く。高。山。乃。以。
婦。乃。海。く。お。ほ。く。く。立。去。免。て。し。雲。
霧。短。山。の。以。婦。せ。く。お。ほ。く。く。立。去。め。
て。し。雲。霧。を。押。別。搔。別。て。聞。食。は。步。玉。を。
む。か。く。聞。食。玉。ひ。く。有。ら。尊。皇。御。孫。命。則。當。
時。乃。天。皇。此。朝。廷。を。始。免。奉。て。く。天。の。下。き。

四。方。乃。國。々。乃。罪。之。云。法。を。罪。之。在。ら。
し。者。を。免。は。て。其。罪。穢。乃。清。は。て。多。子。有。
は。ま。冬。科。戸。乃。神。比。掌。王。玉。娘。風。乃。天。於。
空。の。八。重。九。重。と。重。れ。子。雲。霧。吹。放。は。
事。乃。如。く。朝。の。深。霧。夕。の。深。霧。乃。朝。風。夕。
風。此。吹。拂。娘。事。此。如。く。大。津。の。邊。可。泊。王。
居。多。海。大。船。子。舳。細。解。放。ち。艦。細。解。放。ち。
て。大。海。乃。原。に。押。放。つ。く。出。を。事。乃。如。く。

彼。方。此。方。の。山。々。に。繁。て。蔓。り。多。子。茂。れ。
を。の。惡。木。の。有。る。を。其。根。本。を。燒。又。其。
新。し。此。録。乃。極。る。を。海。敏。き。録。を。以。て。亦。
拂。て。薙。倒。を。事。比。如。く。拂。ひ。盡。し。て。更。に。
遺。さ。は。罪。を。在。ら。し。者。ぞ。を。
夜。へ。玉。ひ。清。光。玉。ふ。事。城。高。山。乃。峯。の。末。
短。山。の。峯。此。末。と。て。真。直。に。山。の。凹。み。處。
て。み。よ。り。澤。へ。か。幸。く。水。の。落。ち。行。く。道。

を。佐。次。那。多。利。と。云。其。所。小。落。ち。て。瀧。は。
瀨。と。れ。て。夫。よ。て。早。く。流。る。く。川。せ。ん。子。
其。川。の。瀨。に。御。坐。を。八。十。枉。津。日。又。瀨。織。
津。比。咩。也。毛。云。神。が。其。罪。を。受。取。玉。ひ。と。
大。海。の。原。に。持。出。玉。ふ。に。お。む。
如。此。持。出。往。玉。へ。お。崎。荒。汐。の。汐。の。ハ。百。
道。の。ハ。汐。路。と。く。潮。乃。往。來。不。路。乃。數。多。
く。有。は。其。潮。乃。路。の。ハ。百。筋。も。會。せ。所。

に。坐。水。戸。比。神。速。秋。津。比。咩。も。毛。又。伊。
豆。能。賣。と。を。云。神。が。受。取。玉。持。と。可。娘。可。
娘。を。吞。玉。ひ。て。む。
如。此。可。不。可。多。と。吞。玉。ひ。と。有。ら。傍。氣。息。
を。吹。出。す。と。あ。ゆ。ふ。坐。吃。神。直。日。大。直。日。
又。氣。吹。戸。主。と。云。神。の。根。乃。國。底。の。國。也。
云。と。枉。事。罪。穢。乃。起。玉。來。玉。本。法。國。不。御。
氣。息。を。以。と。吹。吃。放。ち。玉。ひ。て。む。

如。此。御。い。き。不。と。吹。き。放。ち。玉。ひ。と。有。ら。
傍。根。乃。國。底。の。國。に。坐。吃。速。依。須。良。比。咩。
を。云。神。の。受。持。玉。ひ。と。行。方。と。あ。く。は。是。
を。失。ひ。亡。し。玉。ひ。て。む。
如。此。依。須。良。比。失。ひ。亡。し。玉。ひ。と。有。ら。傍。
今。日。を。玉。始。免。と。罪。と。云。罪。と。在。ら。は。子。
可。し。や。祓。へ。玉。ひ。清。免。玉。始。事。字。聞。食。し。
受。帝。納。北。乃。步。多。海。多。可。し。や。了。字。事。

此大被の詞此ちうけくせもひりくさきにあらを
 其意高く其文雅ふして邊土僻地の初學に徒ハル
 うくに心得難ふるも此そおほかえるよもれ此詞
 ぬやそもあやましくあつたうまものぬくてやま
 あらぬやういふ言をまてちうせくもあやま。蛇足を
 そんたもぬれらたうひもあはぬしひつめあことおみそ
 おほらるむとそを見直し聞直し玉ひねとる
 ちうあ

明治十八年十二月十二日御届
 同 十九年二月 出版

定價金拾錢

著者兼出版人

新瀨縣士族
 權少教正桂上枝

越後國中蒲原郡
 田家村第百五十八番地

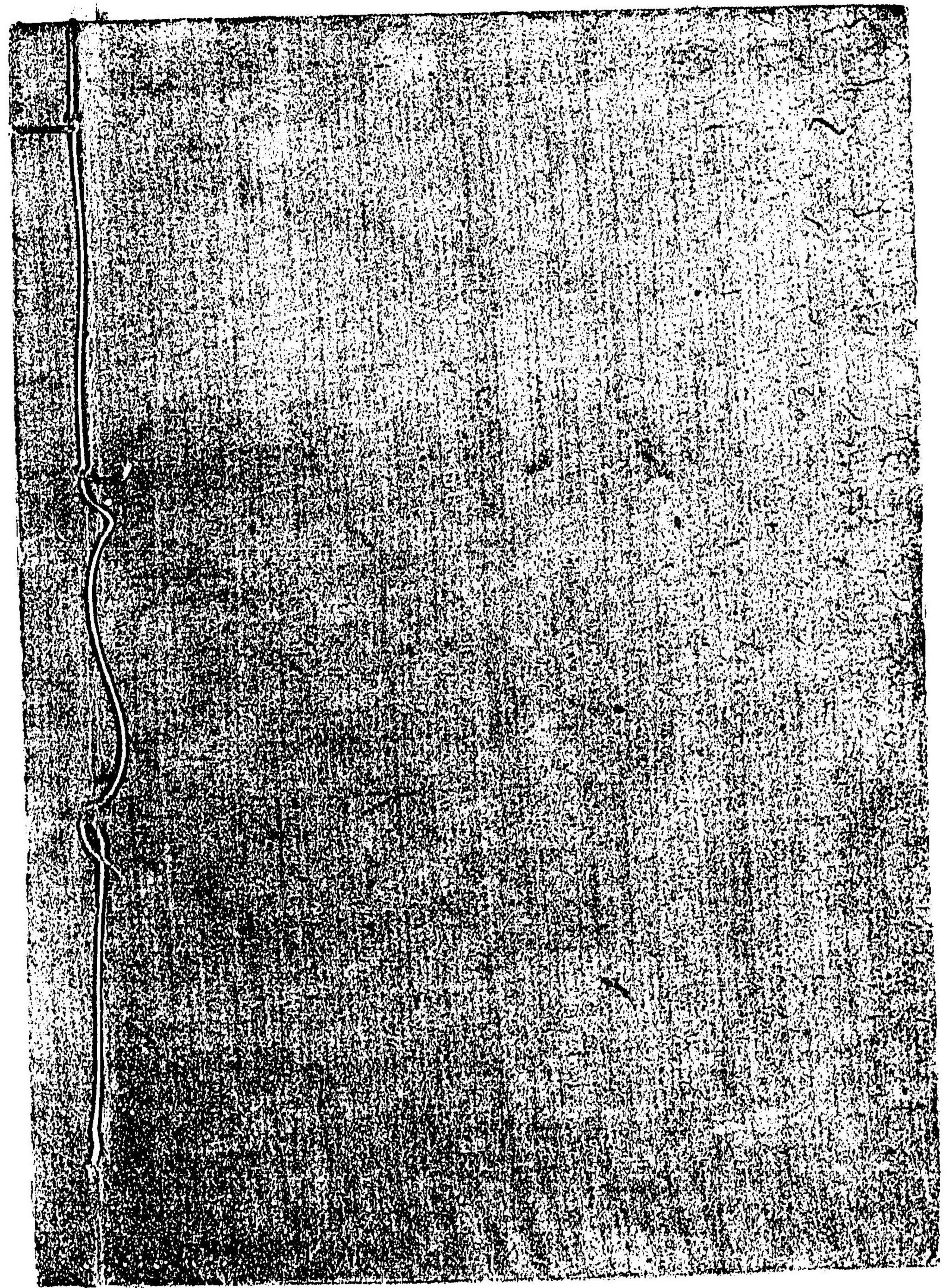
發賣所

新瀨縣中蒲原郡新津町
 神宮分教會日所

賣捌所

東京府日本橋區橋町四丁目十八番地
 皇典出版





特36

568

013880-000-8

特36-568

大祓詞俚言副詮

桂 上枝/著

M19

ABB--0104

